

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘 山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっばいに感じられる恵まれた土地にあります。共に喜び支え合う事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、温かな雰囲気づくりを心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は緑の自然に囲まれ、木々は美しくせせらぎも聞こえ季節の移り変わりを感じさせてくれる。隣接している特別養護老人ホームと合同で避難訓練や運営推進会議を実施している。職員は利用者の表情から利用者の健康状態や思いを把握し、笑顔のある生活を希求しながら介護が提供できるよう努めている。また、職員は利用者一人ひとりをよく観察しており、利用者本位のサービスに繋がっている。年齢差はあるがそれぞれの年代の良さを発揮し、職員同士で励まし合いながら働く姿は仲睦まじく、事業所内の雰囲気は良く、利用者に喜ばれるサービス提供に繋がっている。職員も参加する充実した運営推進会議が開催され、丁寧に会議記録を残しており、参加者から出された意見を日々のケアにも反映している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう 1階

記入者(管理者)

氏 名 渡部 賢之

評価完了日 26 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念をもとに癒される関係と環境づくりを心がけている。また、定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し情報の共有や職員の意識統一をはかるようにしている。 (外部評価) 「癒しの環境の中、自由に暮らして頂く。それが私たちの願いです」という理念は、開設時の職員で話し合い作成している。理念を基本として、管理者を中心に職員は利用者の笑顔を希求した介護が提供できるよう努めている。開設から10年が経過し、長く利用している利用者は高齢になり重度化しているが、利用者本位の地域と一体となったサービスが提供できるよう職員全員で努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、季節の行事や誕生日会の時等に訪問依頼している。小中学校の運動会や集会、文化祭など出来るだけ調整し参加している。また、夏祭りなどは地域住民参加型で毎年実施している。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、知人や顔見知りの地域住民も多く。文化祭に参加したり、秋祭りには子供神輿の訪問があるなど、地域行事に参加することは利用者の楽しみになっている。隣接する特別養護老人ホームと合同で夏祭りを開催しており、多くの地域住民の参加協力があり、事業所は地域住民に浸透している。子供から大人まで地域住民がいつでも訪問できる雰囲気づくりもできており、訪問者は車いすを体験したり、事業所のことを質問したりなど、和やかに打ち解けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 災害などの際には緊急時避難場所としての役割があると考えている。また地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気を心がけ、介護相談や施設見学にも応じ、場合によっては施設の紹介も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回の定期的な実施とはなっていないがあまり形 式にとらわれず柔軟に取り組む事により、21年度以降年 6回の実施は出来ている。25年度は年7回の実施となっ ている。 (外部評価) 運営推進会議は地区総代、民生委員、在宅介護支援セン ター職員、市担当者等の参加を得て開催している。以前は 会議のテーマに困ることもあったが、現在は年間計画を年 度当初に設定することにより、会議がスムーズに開催でき ている。高齢者などに関する制度や防犯などの講演などを 取り入れ、参加しやすい介護となっている。職員も会議に 参加しており、丁寧な会議記録を作成し、職員間で内容を 共有している。会議記録には出席者名は書かれているが、 肩書きなどの記入がないため、追加して記入するとより一 層分かりやすいものとなると思われる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や2カ月ごとの報告だけでなく困難 事例の相談や施設の現状などについても話し合い協力ができ るような体制が出来ている。 (外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の活動を 報告し、意見交換をしている。困難事例のある場合には、 市担当窓口と相談し、解決に繋げている。市内では、生活 保護者指定の事業所が限られているため、高齢介護課から 事業所の空き状況の問い合わせが定期的にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない事により起こりうる事故についても日頃 から家族に十分に説明し、理解を得るようにしている。ま た言葉での拘束となりうる事もあり十分に注意している。 (外部評価) ふとんのズレを防止するため、利用者がベッド柵の使用を 希望し、家族の了承を得て使用する場合もある。言葉によ る拘束にも注意し、職員は「ちょっと待ってよ」という声 かけをするのではなく、「終わったら行きます。順番にし ますね」という声かけをする配慮をしている。日中玄関は 開放し、防犯のため20時から朝明るくなるまで施錠して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間の状況・トラブルについても、早期発見・対処できるように注意している。また外泊等の際には、入居者の心身の状態変化に特に注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 瑞鳳荘に入居後権利擁護事業活用から成年後見制度へ移行された方もおり、その内容や必要性についても職員に説明している。また年に一度は運営推進会議のテーマとしてとり上げ勉強するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間をとり説明し、理解を得るようにしている。また入居についての疑問点や今後の意向についても聞き取り話し合うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見は日々の生活の中からもくみ取るように心がけ、家族来荘時に時間を設け話すようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設とともに設置しており、定期的に会議を開催している。	
			(外部評価) 家族には月1回事業所に訪問してもらい利用料を払ってもらうことを基本としており、来所時に家族から意見や要望を聞き、改善すべき点があれば見直しをしている。利用者毎の担当職員が、日々の会話の中から意見を聞いている。喫煙を希望する利用者がおり、火災防止のため居室での喫煙はできないが、場所を指定し対応したこともある。職員の異動や退職などがある場合には、ホーム便り等で家族に報告することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議、食事会を行い、その時間を利用し情報の共有や職員の意識統一をはかるようにし、同時に職員個々の意見や提案も聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は職員からの相談に快く応じており、意見や提案を話しやすい関係づくりができています。年に数回ある食事会では、活発な意見交換が行われている。年齢差はあるがそれぞれの年代の良さを発揮し、職員同士で励まし合いながら働く姿は仲睦まじく、事業所内の良い雰囲気づくりや利用者のサービスの向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の的確な把握に努め、個々の向上資格取得も積極的に行うようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では職員全員で考え実行していくことを基本としており、管理者及び有資格者については各場面において、スーパーバイザーとなり、的確な判断・助言が出来るようにしている。研修については施設内研修が中心となっており、時間的な問題もあり外部研修にはなかなか出席できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、勉強会や相互訪問とはなっていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接調査を行うようにしている。信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し、個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその 場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接調査を行うよう にしている。信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努め るようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見 を考慮し、個々の生活特性を把握しアセスメントを行うよ うにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、当事業所 の利用が可能、不可能に関わらず相談や施設見学を受け入 れ、必要によっては他事業所や他サービスの紹介も行っ ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケー ションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を 大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに 活かせるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況報 告・介護計画説明をし、ご家族からの意見や要望を確認し 反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て、家族以 外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにして いる。また誰でも気軽に来荘出来る雰囲気づくりを心めが けている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握して いる。以前、歌や踊りの習いごとをしていた利用者には、友 人や知人に快く協力してもらい、継続できるよう支援して いる。家族の協力を得て、馴染みの美容室やお墓参りなど 馴染みの場所に出かけられるよう支援しており、利用者は 心癒される時間を過ごしている。親族の集まりなど、自宅 などに数時間帰り、くつろがれる利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれる様配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが発生しそうになった場合は、誤解やしこりが生じない様に、速やかに職員が介入するようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との連絡調整を行い、退居後も本人家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の思いや意向を開き把握している。家族と同居していない利用者は、家族との関係が希薄になっている場合が多く、事業所の利用が長くなると、家族より職員が思いや意向を把握することも多い。職員は利用者一人ひとりの様子をよく観察して声かけし、日々の言動から思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来ない事を減らし、不可能と思わず出来る事を少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を実施しており、職員間の意見交換、情報交換が出来るようにしている。また、ケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画書を確認できるようにしており、定期的に見直しもしている。	
			(外部評価) 週1回ケア会議を開催し、家族の意見を盛り込み介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。遠方の家族には郵送し、確認印をもらっている。ケアチェック表を確認し、定期的にモニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。また、利用者の要望など会話を聞き逃さないように気をつけ、職員間で共有できるよう日々の記録に残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイスには詳細な部分まで記録し、申し送りノートには要点をまとめて記録し、職員個人個人がチェックするようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め、職員間で都度話し合うようにしている。また、同一法人の他事業所と合同での話し合いの機会を持ったり、職員間・利用者間の交流も図るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所・今治市役所玉川支所にも入居者名簿を提出し、相互協力できる体制を取っている。また地元消防団にも出席してもらい、防災訓練なども実施している。災害時緊急持ち出し用データも作成している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心がけている。以前から の主治医がいる場合にはその病院を継続受診し、症状に応 じて他科の受診も行い指導を受けている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続 して受診することができる。歯科や眼科などの専門医も、 一人ひとりの症状に合わせ、職員による適切な受診介助が 行われている。総合病院を受診する場合は、家族の協力を 得ている。レントゲンや採血、検尿など定期的に検診し、 健康管理をしている。また、感染症対策のため、インフル エンザの予防接種は必ず受けている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を常勤で配置しており、また各職種が協力し異常 の早期発見、疾病の予防に努め早期に主治医の診察を受け るよう心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合でも、面会・様子観察を頻回に行う ようにし、適時、家族・医療スタッフ・主治医との話し合 いも行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診を行 うようにしている。病態に応じて医師を交えてのカンファ レンスを行うようにしているが看護職員も1名しかおらず 現時点でのターミナルケアについては困難な事が多いと思 う。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入居時に事業所では医 療行為の対応ができないことを利用者や家族に説明してい る。また、家族には、事業所として対応できる内容を丁寧 に説明し、理解を得ている。事業所では看取り支援の経験 はなく、段階に応じて、医師等を交えて話し合い、医療行 為が必要になった場合は、病院に転院する利用者も多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けるようにしている。カンファレンスの時等に、個々の対処方法について看護師が指示するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鶴荘グループ防災計画を作成し今治市消防署へも届け出をしている。年2回防災訓練を実施しており、内1回は地元消防団にも参加を要請し、母体施設と合同で訓練を実施している。 (外部評価) 年2回、隣接している特別養護老人ホームと合同で、昼間と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。耐震構造のため地震発生時の建物の被害は心配していないが、幹線道路がふさがり、事業所が孤立してしまう可能性があることを心配しており、食料などの備蓄品は日頃の食事にも使いまわしできるものを用意している。高野地区と畑寺地区の真ん中に事業所は立地しており、隣接している特別養護老人ホームは地域の避難場所に指定されるなど、地域住民との相互の協力体制づくりをする意識が進んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し、個々の状態に応じたケア・対応を実施している。職員間での介護等の相談・助言・忠告は都度実施するようにしている。個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し、職員採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 方言を使用する場合もあるがきつい表現は避け、職員間で声かけの技術が高まるよう話し合い、利用者が笑顔になれる支援ができることを目標にしている。利用者と呼ぶ場合は原則姓に「さん」付けであるが、同姓も多く、名前で呼んでいる利用者もいる。気になる言葉づかいがあった場合には、職員間で注意し気をつけて使用している。必要に応じて、利用者の読んでもらいたい呼び方をする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムに合わせ、出来る限り自由な時間の入浴を実施している。また買い物や外食の機会も取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として日単位、週単位のスケジュールはあるが日々の業務の遂行より、入居者のペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。理容、美容については、ライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマが受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員（栄養士を交え）と入居者が何を食べたいか話し合い献立をたてている。職員、入居者が一緒に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事の時間を心がけている。 (外部評価) 敷地内の菜園で採れた旬の野菜や近くの川で捕れた川カニが食卓にのぼるなど、利用者は楽しみにしている。近隣住民から野菜などのおすそ分けが多く助かっている。毎日、職員2名が順番で利用者と同じ食事を一緒に食べている。利用者は下膳や片付け、おやつ作りなど、できる範囲で一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者のその日の状態に応じて食事の形態を変更し提供できるようにしている。また食事量水分摂取についてはチェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い異常があれば早期にしか受診をするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。 (外部評価) 利用者にはトイレで排泄することを基本として支援している。排泄パターンを把握し、利用者の様子や時間を見て定期的に声かけして誘導を行い、利用者の自立に向けた支援に努めている。入院時にカテーテルを使用していた利用者には、オムツから様子を見ながらパット使用に徐々に変更する努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や生活リハビリはもとより、主治医と十分相談し内服薬の正確な服用を実施し、薬剤の副作用にも十分注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し、好きな時間に入浴が出来るようにしている。また入浴の拒否が多い方については、随時声かけし入浴を勧めている。 (外部評価) 利用者同士が誘い合う良い雰囲気ができており、利用者は楽しみながら入浴をしている。入浴を拒む利用者には、無理強いしないよう失禁のあった場合に着替えなどのタイミングを利用して声かけし、自尊心を損なわないよう入浴してもらっている。時には入浴を拒まれることもあるが、利用者の様子を観察し、職員がチーム体制で入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごして頂くように促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また自分のペースで生活が送れるよう、畳の間（職員室も）開放している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理・投薬を行い、介護職員が内服・確認をしている。また、職員全員に副作用などを説明し、特変があれば速やかに看護師・医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の掃除や洗濯は職員とともに行うようにし、菜園などでの農作業なども出来る限り手伝ってもらっている。また折り紙や小物制作なども出来るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などを行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事にも出かけている。 (外部評価) 事業所周辺は緑の自然に囲まれ、利用者には最適な散歩コースとなっており、気分転換にも繋がっている。敷地内にある菜園に出かけ、なすやさつま芋なども栽培している。車で買い物に出かけたり、季節に応じて花見に行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族本人了承の上、基本的にお金の所持は少額とし、買い物の際には預り金を本人に手渡し支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話も設置してありいつでも利用できるようにしている。要請があれば都度ダイヤルの介助や通訳も行っている。また、葉書や便箋の購入・手紙の投函・手渡しも都度行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンを付けている。また、フロアー内には花壇の花等を摘み生けていたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。 (外部評価) 共用空間は明るく、利用者が快適に過ごせる空間づくりをしている。食堂を兼ねた居間では、利用者は自由にくつろいでおり、調理する匂いや音を感じることができ、利用者の食欲を増進させてくれる。犬のぬいぐるみをしっかり抱きかかえ、くつろぐ利用者の姿も見られた。また、窓から見える景色は、季節の移り変わりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになれたり、少人数の集まりの場としてはフロアー内にソファを置いてある。また職員室は畳の部屋であり自由に開放しているのでみんなの集いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使いなれているタンスやソファ、家族の位牌や仏壇だけでなく動物のぬいぐるみなども自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室には使い慣れたタンスやソファ、大切な仏壇などを家族の協力のもと持ち込み、利用者が安心できる空間づくりをしている。日中は居室で過ごす利用者は少なく、ほとんどの時間を共有空間で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアーである。生活動線上の安全確保の為手すりを設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。また段差なく屋外にも出られ、庭園・菜園もありガーデニングや野菜づくりも皆で行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873200806
法人名	社会福祉法人 藤寿会
事業所名	グループホーム 瑞鳳荘
所在地	愛媛県今治市玉川町畑寺甲15-5
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛と笑顔、自然がいっぱい瑞鳳荘 山や川、田んぼなどの豊かな自然に囲まれ、四季の移ろいを体いっばいに感じられる恵まれた土地にあります。共に喜び支え合う事を目標に、いつまでもその人らしく生きられるよう、温かな雰囲気づくりを心がけています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は緑の自然に囲まれ、木々は美しくせせらぎも聞こえ季節の移り変わりを感じさせてくれる。隣接している特別養護老人ホームと合同で避難訓練や運営推進会議を実施している。職員は利用者の表情から利用者の健康状態や思いを把握し、笑顔のある生活を希求しながら介護が提供できるよう努めている。また、職員は利用者一人ひとりをよく観察しており、利用者本位のサービスに繋がっている。年齢差はあるがそれぞれの年代の良さを発揮し、職員同士で励まし合いながら働く姿は仲睦まじく、事業所内の雰囲気は良く、利用者に喜ばれるサービス提供に繋がっている。職員も参加する充実した運営推進会議が開催され、丁寧に会議記録を残しており、参加者から出された意見を日々のケアにも反映している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 瑞鳳荘

(ユニット名) ずいほうそう 2階

記入者(管理者)

氏 名 渡部 賢之

評価完了日 26 年 9 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 基本理念をもとに癒される関係と環境づくりを心がけている。また、定期的にカンファレンスを行い、その時間を利用し情報の共有や職員の意識統一をはかるようにしている。 (外部評価) 「癒しの環境の中、自由に暮らして頂く。それが私たちの願いです」という理念は、開設時の職員で話し合い作成している。理念を基本として、管理者を中心に職員は利用者の笑顔を希求した介護が提供できるよう努めている。開設から10年が経過し、長く利用している利用者は高齢になり重度化しているが、利用者本位の地域と一体となったサービスが提供できるよう職員全員で努力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 各種団体の訪問は積極的に受け入れ、季節の行事や誕生日会の時等に訪問依頼している。小中学校の運動会や集会、文化祭など出来るだけ調整し参加している。また、夏祭りなどは地域住民参加型で毎年実施している。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、知人や顔見知りの地域住民も多く。文化祭に参加したり、秋祭りには子供神輿の訪問があるなど、地域行事に参加することは利用者の楽しみになっている。隣接する特別養護老人ホームと合同で夏祭りを開催しており、多くの地域住民の参加協力があり、事業所は地域住民に浸透している。子供から大人まで地域住民がいつでも訪問できる雰囲気づくりもできており、訪問者は車いすを体験したり、事業所のことを質問したりなど、和やかに打ち解けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 災害などの際には緊急時避難場所としての役割があると考えている。また地域住民や利用者家族が気軽に来荘できる雰囲気を心がけ、介護相談や施設見学にも応じ、場合によっては施設の紹介も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1回の定期的な実施とはなっていないがあまり形 式にとらわれず柔軟に取り組む事により、21年度以降年 6回の実施は出来ている。25年度は年7回の実施となっ ている。 (外部評価) 運営推進会議は地区総代、民生委員、在宅介護支援セン ター職員、市担当者等の参加を得て開催している。以前は 会議のテーマに困ることもあったが、現在は年間計画を年 度当初に設定することにより、会議がスムーズに開催でき ている。高齢者などに関する制度や防犯などの講演などを 取り入れ、参加しやすい介護となっている。職員も会議に 参加しており、丁寧な会議記録を作成し、職員間で内容を 共有している。会議記録には出席者名は書かれているが、 肩書きなどの記入がないため、追加して記入するとより一 層分かりやすいものとなると思われる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議への参加や2カ月ごとの報告だけでなく困難 事例の相談や施設の現状などについても話し合い協力ができ るような体制が出来ている。 (外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の活動を 報告し、意見交換をしている。困難事例のある場合には、 市担当窓口と相談し、解決に繋げている。市内では、生活 保護者指定の事業所が限られているため、高齢介護課から 事業所の空き状況の問い合わせが定期的にある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない事により起こりうる事故についても日頃 から家族に十分に説明し、理解を得るようにしている。ま た言葉での拘束となりうる事もあり十分に注意している。 (外部評価) ふとんのズレを防止するため、利用者がベッド柵の使用を 希望し、家族の了承を得て使用する場合もある。言葉によ る拘束にも注意し、職員は「ちょっと待ってよ」という声 かけをするのではなく、「終わったら行きます。順番にし ますね」という声かけをする配慮をしている。日中玄関は 開放し、防犯のため20時から朝明るくなるまで施錠して いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待はもとより、虐待に発展する恐れのある入居者間の状況・トラブルについても、早期発見・対処できるように注意している。また外泊等の際には、入居者の心身の状態変化に特に注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 瑞鳳荘に入居後権利擁護事業活用から成年後見制度へ移行された方もおり、その内容や必要性についても職員に説明している。また年に一度は運営推進会議のテーマとしてとり上げ勉強するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の契約時には十分時間をとり説明し、理解を得るようにしている。また入居についての疑問点や今後の意向についても聞き取り話し合うようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意見は日々の生活の中からもくみ取るように心がけ、家族来荘時に時間を設け話すようにしている。また第三者委員、家族代表を含めた苦情処理委員会を母体施設とともに設置しており、定期的に会議を開催している。	
			(外部評価) 家族には月1回事業所に訪問してもらい利用料を払ってもらうことを基本としており、来所時に家族から意見や要望を聞き、改善すべき点があれば見直しをしている。利用者毎の担当職員が、日々の会話の中から意見を聞いている。喫煙を希望する利用者がおり、火災防止のため居室での喫煙はできないが、場所を指定し対応したこともある。職員の異動や退職などがある場合には、ホーム便り等で家族に報告することを検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にケア会議、食事会を行い、その時間を利用し情報の共有や職員の意識統一をはかるようにし、同時に職員個々の意見や提案も聞くようにしている。 (外部評価) 管理者は職員からの相談に快く応じており、意見や提案を話しやすい関係づくりができています。年に数回ある食事会では、活発な意見交換が行われている。年齢差はあるがそれぞれの年代の良さを発揮し、職員同士で励まし合いながら働く姿は仲睦まじく、事業所内の良い雰囲気づくりや利用者のサービスの向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の勤務状況や心身の状況の的確な把握に努め、個々の向上資格取得も積極的に行うようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 当事業所では職員全員で考え実行していくことを基本としており、管理者及び有資格者については各場面において、スーパーバイザーとなり、的確な判断・助言が出来るようにしている。研修については施設内研修が中心となっており、時間的な問題もあり外部研修にはなかなか出席できていない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 個人的な交流の機会やネットワークはあるが、勉強会や相互訪問とはなっていない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接調査を行うようにしている。信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努めるようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見を考慮し、個々の生活特性を把握しアセスメントを行うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、まずその 場で簡単な聞き取り調査を行い、適時面接調査を行うよう にしている。信頼関係と的確なニーズの把握・分析に努め るようにし、利用契約となる場合には、本人、家族の意見 を考慮し、個々の生活特性を把握しアセスメントを行うよ うにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 本人・家族・他事業所から相談があった場合は、当事業所 の利用が可能、不可能に関わらず相談や施設見学を受け入 れ、必要によっては他事業所や他サービスの紹介も行っ ている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケー ションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を 大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに 活かせるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会の際には出来るだけ時間を作っていただき、近況報 告・介護計画説明をし、ご家族からの意見や要望を確認し 反映できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 利用契約の際、家族及び身元引受人の同意を得て、家族以 外の方が訪問された場合でも本人に面会できるようにして いる。また誰でも気軽に来荘出来る雰囲気づくりを心めが けている。 (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞き把握して いる。以前、歌や踊りの習いごとをしていた利用者には、友 人や知人に快く協力してもらい、継続できるよう支援して いる。家族の協力を得て、馴染みの美容室やお墓参りなど 馴染みの場所に出かけられるよう支援しており、利用者は 心癒される時間を過ごしている。親族の集まりなど、自宅 などに数時間帰り、くつろがれる利用者もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ユニットでの行動も重視し、良い仲間意識が生まれる様配慮している。また、孤立しがちな入居者や、入居者間でトラブルが発生しそうになった場合は、誤解やしこりが生じない様に、速やかに職員が介入するようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居される場合でも、その利用者の適所の紹介や関係機関との連絡調整を行い、退居後も本人家族が気軽に相談できる関係づくりを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
			(外部評価) 入居時に利用者や家族の思いや意向を開き把握している。家族と同居していない利用者は、家族との関係が希薄になっている場合が多く、事業所の利用が長くなると、家族より職員が思いや意向を把握することも多い。職員は利用者一人ひとりの様子をよく観察して声かけし、日々の言動から思いをくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活歴の把握はもとより、個々のコミュニケーションと様子観察を常に行うようにしている。また傾聴を大切にし、知りえた情報は職員全員で共有し、個別ケアに活かせるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で出来ない事を減らし、不可能と思わず出来る事を少しずつでも増やしていけるよう、自由、共感、笑顔、癒しをモットーに入居者に接するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケア会議を実施しており、職員間の意見交換、情報交換が出来るようにしている。また、ケアチェック表を作成し、いつでもサービス計画書を確認できるようにしており、定期的に見直しもしている。	
			(外部評価) 週1回ケア会議を開催し、家族の意見を盛り込み介護計画を作成している。作成した介護計画は家族に説明し、同意を得ている。遠方の家族には郵送し、確認印をもらっている。ケアチェック表を確認し、定期的にモニタリングを行い、3か月に1回見直しをしている。また、利用者の要望など会話を聞き逃さないように気をつけ、職員間で共有できるよう日々の記録に残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々のフェイスには詳細な部分まで記録し、申し送りノートには要点をまとめて記録し、職員個人個人がチェックするようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズの的確な把握に努め、職員間で都度話し合うようにしている。また、同一法人の他事業所と合同での話し合いの機会を持ったり、職員間・利用者間の交流も図るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 母体施設はもとより、駐在所・今治市役所玉川支所にも入居者名簿を提出し、相互協力できる体制を取っている。また地元消防団にも出席してもらい、防災訓練なども実施している。災害時緊急持ち出し用データも作成している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各職種が協力し異常の早期発見、疾病の予防に努め、早期 に主治医の診察が受けられるよう心がけている。以前から の主治医がいる場合にはその病院を継続受診し、症状に応 じて他科の受診も行い指導を受けている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続 して受診することができる。歯科や眼科などの専門医も、 一人ひとりの症状に合わせ、職員による適切な受診介助が 行われている。総合病院を受診する場合は、家族の協力を 得ている。レントゲンや採血、検尿など定期的に検診し、 健康管理をしている。また、感染症対策のため、インフル エンザの予防接種は必ず受けている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を常勤で配置しており、また各職種が協力し異常 の早期発見、疾病の予防に努め早期に主治医の診察を受け るよう心がけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入居者が入院した場合でも、面会・様子観察を頻回に行う ようにし、適時、家族・医療スタッフ・主治医との話し合 いも行うようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 特変があればその都度家族に連絡し、早めに病院受診を行 うようにしている。病態に応じて医師を交えてのカンファ レンスを行うようにしているが看護職員も1名しかおらず 現時点でのターミナルケアについては困難な事が多いと思 う。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、入居時に事業所では医 療行為の対応ができないことを利用者や家族に説明してい る。また、家族には、事業所として対応できる内容を丁寧 に説明し、理解を得ている。事業所では看取り支援の経験 はなく、段階に応じて、医師等を交えて話し合い、医療行 為が必要になった場合は、病院に転院する利用者も多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルがあり、応急手当をしつつ看護師の指示を受けるようにしている。カンファレンスの時等に、個々の対処方法について看護師が指示するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 瑞鶴荘グループ防災計画を作成し今治市消防署へも届け出をしている。年2回防災訓練を実施しており、内1回は地元消防団にも参加を要請し、母体施設と合同で訓練を実施している。 (外部評価) 年2回、隣接している特別養護老人ホームと合同で、昼間と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。耐震構造のため地震発生時の建物の被害は心配していないが、幹線道路がふさがり、事業所が孤立してしまう可能性があることを心配しており、食料などの備蓄品は日頃の食事にも使いまわしできるものを用意している。高野地区と畑寺地区の真ん中に事業所は立地しており、隣接している特別養護老人ホームは地域の避難場所に指定されるなど、地域住民との相互の協力体制づくりをする意識が進んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活歴などを十分に把握し、個々の状態に応じたケア・対応を実施している。職員間での介護等の相談・助言・忠告は都度実施するようにしている。個人情報の取り扱いについても日頃より十分に注意し、職員採用時に誓約書も交わしている。 (外部評価) 方言を使用する場合もあるがきつい表現は避け、職員間で声かけの技術が高まるよう話し合い、利用者が笑顔になれる支援ができることを目標にしている。利用者と呼ぶ場合は原則姓に「さん」付けであるが、同姓も多く、名前で呼んでいる利用者もいる。気になる言葉づかいがあった場合には、職員間で注意し気をつけて使用している。必要に応じて、利用者の読んでもらいたい呼び方をする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の生活リズムに合わせ、出来る限り自由な時間の入浴を実施している。また買い物や外食の機会も取るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 事業所として日単位、週単位のスケジュールはあるが日々の業務の遂行より、入居者のペースを優先している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) モーニングケアの際、入居者と一緒にその日着る服を選び用意するようにしている。理容、美容については、ライズ（移動福祉理美容車）によるカット、パーマが受けられるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員（栄養士を交え）と入居者が何を食べたいか話し合い献立をたてている。職員、入居者が一緒に食事をし、会話を楽しみながらゆったりとした食事の時間を心がけている。	
			(外部評価) 敷地内の菜園で採れた旬の野菜や近くの川で捕れた川カニが食卓にのぼるなど、利用者は楽しみにしている。近隣住民から野菜などのおすそ分けが多く助かっている。毎日、職員2名が順番で利用者と同じ食事を一緒に食べている。利用者は下膳や片付け、おやつ作りなど、できる範囲で一緒に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 入居者のその日の状態に応じて食事の形態を変更し提供できるようにしている。また食事量水分摂取についてはチェックし記録に残している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前、モーニングケアの際には、口腔ケアを行い異常があれば早期にしか受診をするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失禁前のトイレ誘導を実施している。また、ポータブルトイレ使用者も日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。 (外部評価) 利用者にはトイレで排泄することを基本として支援している。排泄パターンを把握し、利用者の様子や時間を見て定期的に声かけして誘導を行い、利用者の自立に向けた支援に努めている。入院時にカテーテルを使用していた利用者には、オムツから様子を見ながらパット使用に徐々に変更する努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 飲食物の工夫や生活リハビリはもとより、主治医と十分相談し内服薬の正確な服用を実施し、薬剤の副作用にも十分注意している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日や時間帯は特に決めておらず、本人の意思を尊重し、好きな時間に入浴が出来るようにしている。また入浴の拒否が多い方については、随時声かけし入浴を勧めている。 (外部評価) 利用者同士が誘い合う良い雰囲気ができており、利用者は楽しみながら入浴をしている。入浴を拒む利用者には、無理強いしないよう失禁のあった場合に着替えなどのタイミングを利用して声かけし、自尊心を損なわないよう入浴してもらっている。時には入浴を拒まれることもあるが、利用者の様子を観察し、職員がチーム体制で入浴してもらえよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来る限り部屋外で過ごして頂くように促し、可能な限り戸外での活動や散歩なども実施している。また自分のペースで生活が送れるよう、畳の間（職員室も）開放している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が薬剤の管理・投薬を行い、介護職員が内服・確認をしている。また、職員全員に副作用などを説明し、特変があれば速やかに看護師・医師に相談するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常の掃除や洗濯は職員とともに行うようにし、菜園などでの農作業なども出来る限り手伝ってもらっている。また折り紙や小物制作なども出来るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 事業所周辺は自然豊かであり、日常的に散歩などを行うようにしている。また定期的にショッピングセンターでの買い物や食事にも出かけている。 (外部評価) 事業所周辺は緑の自然に囲まれ、利用者には最適な散歩コースとなっており、気分転換にも繋がっている。敷地内にある菜園に出かけ、なすやさつま芋なども栽培している。車で買い物に出かけたり、季節に応じて花見に行けるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族本人了承の上、基本的にお金の所持は少額とし、買い物の際には預り金を本人に手渡し支払ってもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロア内に公衆電話も設置してありいつでも利用できるようにしている。要請があれば都度ダイヤルの介助や通訳も行っている。また、葉書や便箋の購入・手紙の投函・手渡しも都度行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夜間鏡に見えてしまうガラスにはカーテンを付けている。また、フロアー内には花壇の花等を摘み生けていたり、入居者手作りの小物を飾ったりしている。 (外部評価) 共用空間は明るく、利用者が快適に過ごせる空間づくりをしている。食堂を兼ねた居間では、利用者は自由にくつろいでおり、調理する匂いや音を感じることができ、利用者の食欲を増進させてくれる。犬のぬいぐるみをしっかり抱きかかえ、くつろぐ利用者の姿も見られた。また、窓から見える景色は、季節の移り変わりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 独りになれたり、少人数の集まりの場としてはフロアー内にソファを置いてある。また職員室は畳の部屋であり自由に開放しているのでみんなの集いの場となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使いなれているタンスやソファ、家族の位牌や仏壇だけでなく動物のぬいぐるみなども自由に持ち込んでもらっている。 (外部評価) 居室には使い慣れたタンスやソファ、大切な仏壇などを家族の協力のもと持ち込み、利用者が安心できる空間づくりをしている。日中は居室で過ごす利用者は少なく、ほとんどの時間を共有空間で過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事業所内は全域バリアフリーとなっており、床材もクッションフロアーである。生活動線上の安全確保の為手すりを設置してあり、必要以上の物を置かないようにしている。また段差なく屋外にも出られ、庭園・菜園もありガーデニングや野菜づくりも皆で行っている。	